

【佳作】

北方領土と私たちの願い

北海道教育大学附属札幌中学校

1年 曾根 遙真

私は、小学校の頃、第二次世界大戦の終わりに旧ソ連が北方領土に侵攻し、今もなお現在のロシアが占領し続けていることを学んだ。私は、北方領土について今、どのような問題があるのか調べてみることにした。

現在、北方領土には大きく二つの問題がある。

一点目は、元島民の問題だ。新型コロナウイルスの影響で、北方領土の自由訪問ができなくなった。さらに、今年二月のロシアによるウクライナ侵攻から、ロシアが日本を非友好国に指定したため、交流事業再開の見通しも立たなくなった。元島民が高齢化している今、ロシアとの交流再開、そして北方領土返還は緊急の課題である。

二点目は、漁業への影響だ。例えばサンマ漁の場合、これまでロシアが主張している排他的経済水域を通して漁場へ行っていたが、ロシアが日本を非友好国に指定した今、日本の漁船がロシアにだ捕される可能性があるため、その水域を迂回して漁場へ向かう必要がある。ロシアのウクライナ侵攻により燃料費が高騰している中、さらに燃料代がかかってくることになる。また、北方領土の貝殻島周辺のコンブ漁は例年より開始がおくれるなど、漁業者にとって大きな問題だ。

私はこのような問題があることを学び、私たち自身のこととして北方領土問題を学んでいくことが大切だと感じた。自分たちの土地が不当に取り上げられた元島民は本当に悔しかったと思う。元島民の平均年齢も八十六歳と高齢になった今、私たち若い世代がその思いを引きついでいかなければいけないと思う。

また、サンマ漁などをふくめて、漁業者がかかえる課題は、私たちの食生活に大きく影響する。魚の値段が高くなったり、魚が食べられなくなる恐れがあるためだ。

このような問題があることを多くの人に知ってほしいと思う。そうでなければ、元島民の思いを実現できないし、私たちの食生活も大きく変化してしまう。そして、最も大切なことは、私たち日本人が開拓した土地を不当に奪われたままになり、それが当たり前になってしまうことだ。

私は、北方領土問題について関心を持ち続け、多くの人に伝えていきたいと思う。